

# 海岸林再生 名取の北釜に白砂 青松を取り戻す

東日本大震災の津波によって、東北地方太平洋沿岸部の海岸林は大きな被害を受けた。青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県の海岸林の浸水被害は約3660haに及び、中でも宮城県は浸水面積が約1750haと飛び抜けている。

海岸林とは、飛砂や塩害、強風や高潮から田畑や家屋を守るために、仙台平野では伊達政宗公の時代から組織的に造成されてきた。現在、仙台空港近くの名取市北釜地区も耕地を作るために、湿地帯や原野を開墾し、海からの飛砂や塩害を防ぐ目的でクロマツが植林された。その後、地元の人たちが海岸林を守ってきた。日本の海では白砂に松林が一つの典型的な風景としてあるが、その多くは農地や家屋を守る実利的な目的があった植林されたものだ。普段はあまり意識されない松林だ

が、大きな効果が実証されている。だが、今回の津波では岩手県陸前高田市の高田松原のように、壊滅してしまった所も多い。今回の津波で海岸林が流された原因は、地下水面が高いため、根が垂直に下がらず、地下水に触れないように、水平に根がはり、倒れ



鈴木英二代表。背景はまばらに残った海岸林

易くなってしまうと分析されている。北釜地区でも、数メートルの高さがある丘状地のクロマツは津波に耐えて残っており、今後の植栽では、3メートル盛り土した上に植栽する計画だ。同地区では震災前、70haの農地でチンゲンサイを生産し、年2億円の売り上げがあったが、津波で浸水。海

## 海岸林を地元の手で

震災後、いち早く公益財団法人オイスカ（東京都）が海岸林の再生を計画。ツテがあった北釜の人たちに11年5月に説明会を実施したところ、賛同者が集まり地元の人たちが中心となる「海岸林再生プロジェクト」が立ち上がった。同プロジェクトは名取市北釜地区から開

岸沿いの幅約200メートルあった海岸林も壊滅的被害を受け、現在はまばらに残っているのみだ。



クロマツの苗を床替え作業中の守る会のメンバー（オイスカ提供）

災で自宅の確保や農業の継続など先行きの見えない中で、25人が海岸林再生プロジェクトに賛同。12年2月に「名取市海岸林再生の会」（以下、再生の会）が発足した。同会代表の鈴木英二氏は「津波で何もかも流されて、自分たちの生活がどうなるかわからない状況でしたが、オイスカの人たちが海岸林再生の話をされて、地元民20人以上が賛同して始まりました。ここで農業を続けるには、海岸林が必要でした」と語る。オイスカ啓発普及部課長で

海岸林再生プロジェクト担当の吉田俊通氏は「このプロジェクトは地元の人たちの力が重要です。公共事業では地元の人たちが参画できませんが、オイスカと一緒に取り組むことで、地元の人たちも参画できます。被災農家の雇用も生まれます」と語る。海外での農村開発の経験が豊富なオイスカならではの地元民を巻き込んだ方法で、プロジェクトがスタートした。

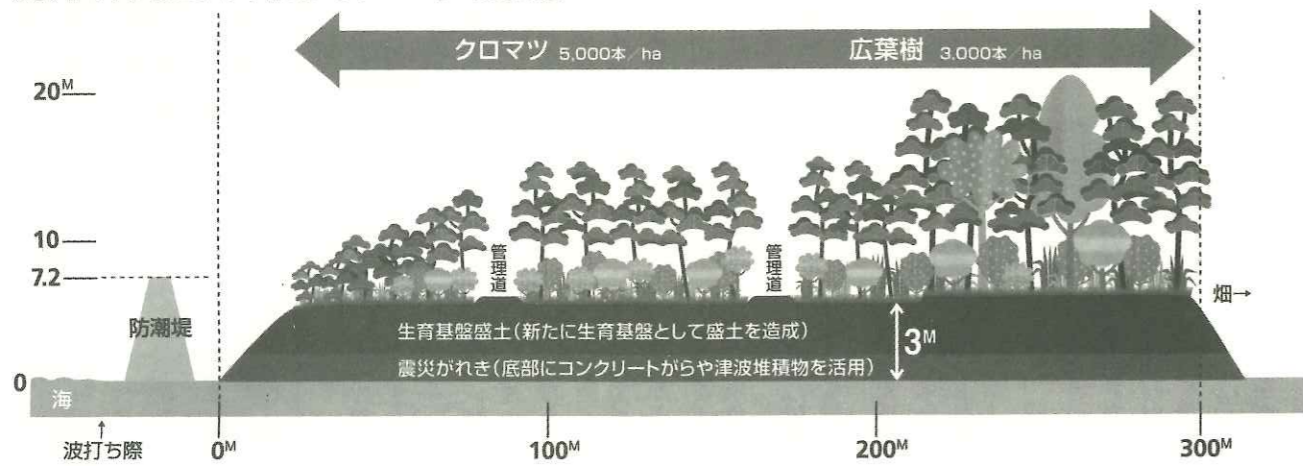
## 種から育て、雇用に貢献

海岸林再生プロジェクトでは、クロマツの種を発芽させ、苗木を育成し海岸の約3メートル盛り土された用地に植林する。これら

し育てることはできない。再生の会では、代表して3人が種苗組合員となり、種子を手にする道筋をつけた。また、植林に際しては森林組合の協力を得る。種子の発芽は94%と非常に高い成績を達成したが、草取りや水やり、害虫駆除など人手のかかる作業が多く、床替えなどを行い、最終的に樹木として育つのは半程度と言われている。クロマツは10年で高さ1.5メートル程度に育ち、飛砂を止める効果を発揮、30年で間伐する。ただ、海沿いの養分の少ない厳しい環境であるため、枯れる木も

多いという。再生の会の鈴木代表は「ここでもう一度野菜を作りたいという思いで皆頑張っています」と語る。こういった、地元民が参画しての海岸林の再生はまれなケースで、多くは公共工事として国や県が主体で植栽を行う。「地元では、国がやってくれるのだからまかせておけば良い、という声もありましたが、自分たちでやるのが大事なのです。このプロジェクトはたくさんの方々の寄付で成り立っています。その思いも大事にしていきたい」と鈴木代表は訴える。

## 海岸林再生の将来イメージ(名取市)



のメンバーが主体的に参加。必要に応じて、種苗組合や森林組合、ボランティアなどの協力を仰ぐ。現在メンバーは33人で、全て被災した地元農家だ。12年は22人、13年は約1000人分（延べ。1日8時間労働換算）の雇用を生んだ。クロマツは春に播種し、発芽した苗を間隔が広がるように床替えを行い、25〜45センチに成長した3年目の苗が植林される。会のメンバーは育苗や床替え、植林、下刈、除伐などの作業を行うが、フルタイムで働くわけではなく、その時々仕事を自身の農作業との兼ね合いで参加でき、副収入を得られる。自分たちの地域を守る、海岸林作りから参加し、なおかつ収入も得られる点が、このプロジェクトの優れた点だ。資金の10億円も、オイスカのネットワークを生かして募金で賄う。大企業の寄付も多いが、「件数では個人の寄付が圧倒的に多い」とオイスカの吉田課長は語る。中でも、宮城県内からの寄付が多いそうだ。これまでの寄付総額は約3億円、年に1億円のペースで集まっている。

### 旧集中/実践型 「将軍の日」 経営者・後継者のための 中期5カ年計画立案セミナー

意思決定ができます！ 攻め・守りの決断をサポートします！

平成26年「将軍の日」実施予定日

第66回 4月19日 (土)	第67回 6月21日 (土)
第68回 7月19日 (土)	第69回 9月20日 (土)
第70回 10月18日 (土)	第71回 11月15日 (土)

◆開催日時 上記よりご希望の日をお選び下さい。  
10時00分～18時00分

◆会場 千葉経営企画(株) 2階 会議室

◆参加費 一社 30,000円(税抜き)

※全国標準価格は1社50,000円(税抜き)ですが、弊社で「将軍の日」を実施された企業様に限り特別優待価格1社30,000円(税抜き)です。全国標準価格とは…当社が会員となっている「あしん経営をサポートする会」が全国で実施している「将軍の日」の実施価格です。

当社では、1日で納得のいく経営計画書が作成できるよう、当社担当が事前準備の為に訪問いたします。お気軽にご相談下さい。

詳しくはWebで!!! 千葉経営企画 クリック

(お問い合わせ・お申込みは) 千葉経営企画(株) 担当 今野・野窪  
〒985-0042 宮城県塩釜市玉川1-2-40  
TEL022-365-2823 FAX022-366-3882  
http://www.chiba-kaikai.co.jp/ E-mail:chiba-kaikai@tkcnf.or.jp